

日本ガス協会 広瀬会長 会見発言要旨

1. 安定供給に向けた LNG 調達先の多様化について

先月、ホルムズ海峡で日本のタンカーが攻撃を受けるという事件が発生した。日本が輸入する LNG がホルムズ海峡を通る割合は 20%弱であり、旧一般ガス事業者に限れば、一部カタールからの輸入はあるものの、ホルムズ海峡依存度は 3%程度であることから、ガス業界への影響は小さい。

しかしながら、LNG 価格の多くは油価連動であるため、石油価格が上昇すればその影響を受ける。また、船舶の保険料も上昇しているという話もあるため、予断を許さない。イギリスの船が拿捕されるなど、今後も偶発的なことをきっかけに何が起こるか分からないため、引き続き注視していきたい。

LNG は世界各国から輸入しており、最近では、アメリカのシェールガスをはじめ、アフリカ、北極圏と新しい供給源も増えてきている。我々ガス業界としては、今後も調達先の多様化を図るとともに、価格指標の多様化なども図ることで、供給安定性だけでなく、価格の低減にも取り組んでいく。

2. Natural Gas Day 総括および G20 における天然ガスの位置づけについて

6月12日に国際ガス連盟と日本ガス協会の主催で Natural Gas Day というイベントを開催し、G20 に参加する各国のガス事業関係者や経済産業省にも参加いただいた。中でも、パネルディスカッションにおいて、LNG の産出国と消費国が様々な意見交換をできたことは有意義であった。それらの議論を基に、両団体連名による「共同声明」をとりまとめ、翌日の 13 日に世耕経済産業大臣に手交した。大臣からは、「LNG の重要性を、G20 軽井沢関

係閣僚会合で各国の閣僚に伝えるよう努力する。」との発言を頂き、その後の G20 閣僚会合の閣僚声明で「天然ガスの果たす役割の重要性と、今後数十年に渡り大幅に拡大する可能性」が盛り込まれた。G20 という機会を捉え、ガス業界としては非常に意義のあるイベントが実施できたと考えている。

3. 今後の予定について

今年前半の大きなイベントとして G20 と参院選があった。今後も、10月の消費税の引き上げや、即位の礼、ラグビーワールドカップ、アフリカ開発会議等、イベントが目白押しである。我々の業界においては、1872年10月31日に横浜において日本初のガス灯が灯ったことから、この日をガスの記念日としており、今年はこの日に合わせて様々なイベントを予定している。今後具体化してきたところで情報発信をしていきたい。

以上